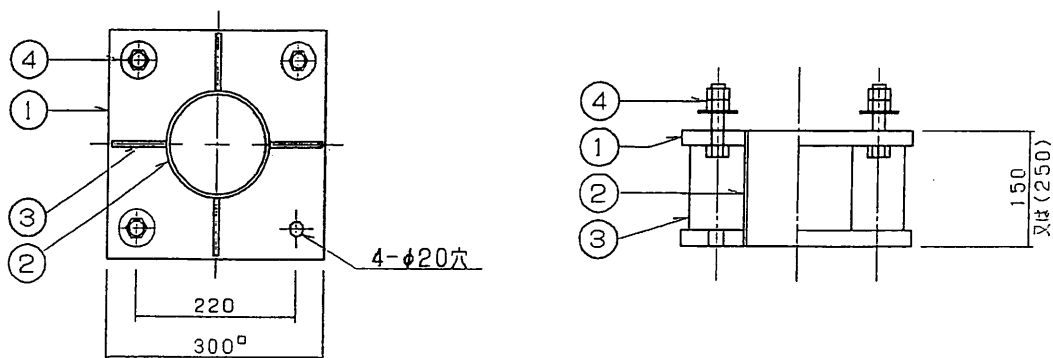
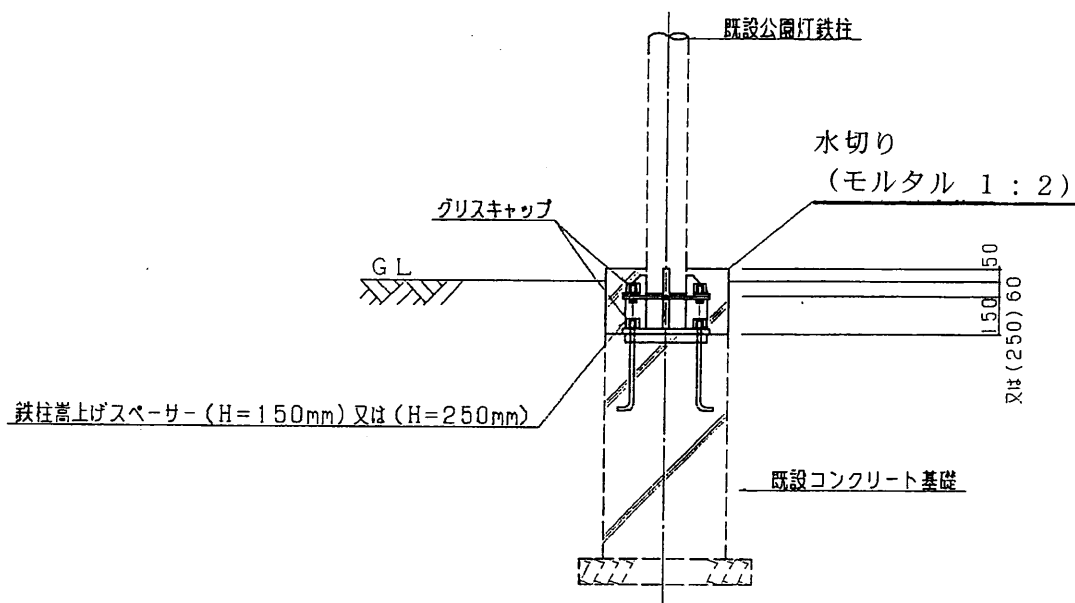


2-5 鉄柱嵩上げスペーサ

2-5-1 ベースサイズ=300角の場合



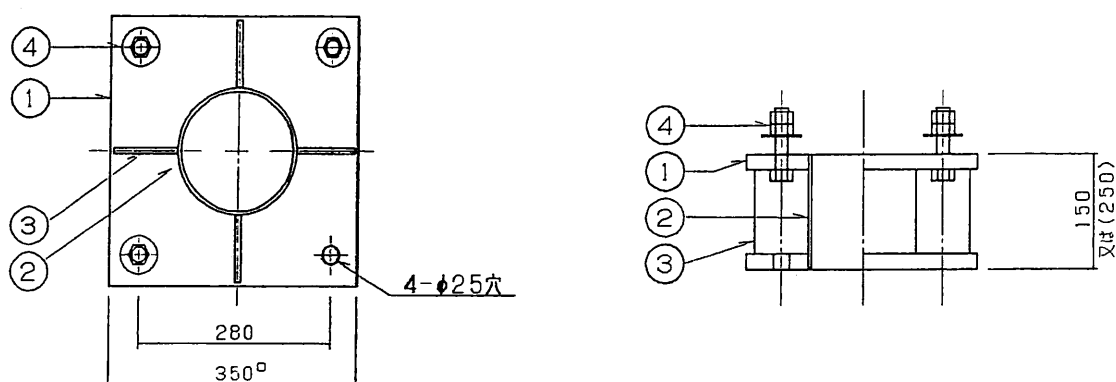
鉄柱嵩上げスペーサ参考姿図 1:10



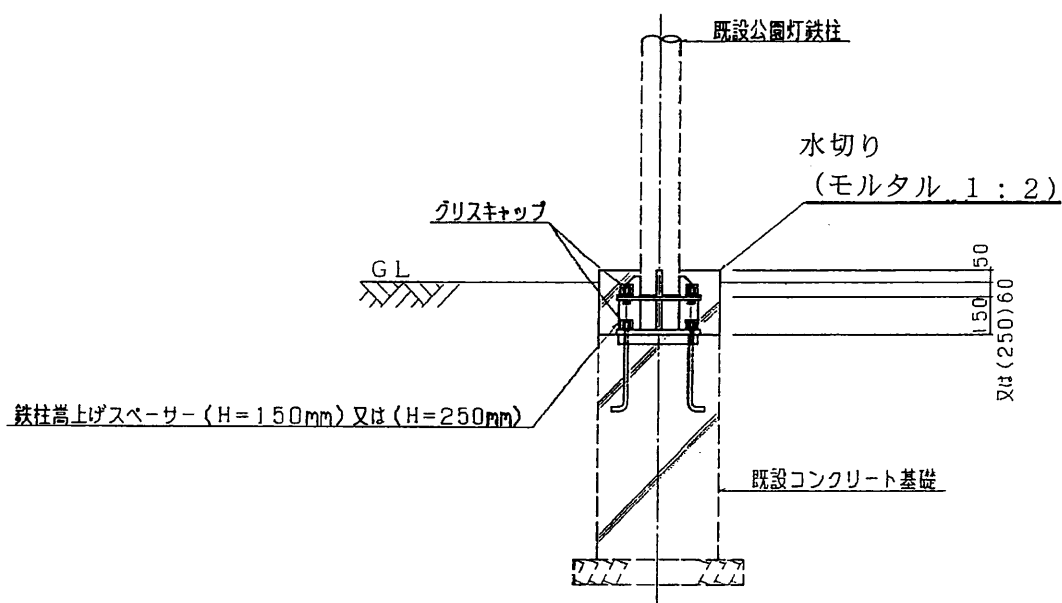
鉄柱嵩上げスペーサ取付参考姿図 1:30

鉄柱嵩上げスペーサ			
品番	品名	仕様	備考
①	ベースプレート	SS400 t=16.0mm : 300	JIS H 8641 HDZ45
②	支柱	STK400 t= 3.5mm : φ139.8	JIS H 8641 HDZ45
③	リブプレート	SS400 t=12.0mm	JIS H 8641 HDZ45
④	セットボルト	SS400 : M16X80L	JIS H 8641 HDZ35
注記 1. 既設コンクリート水切りを破砕し、公園灯鉄柱を一時撤去した後、既設アンカーゲージの水平を水準器等にて確認し、鉄柱嵩上げスペーサを取付のこと。 2. 図中に記載した寸法等は、参考値とする。			

2-5-2 ベースサイズ=350角の場合



鉄柱嵩上げスパーサー参考姿図 1:10



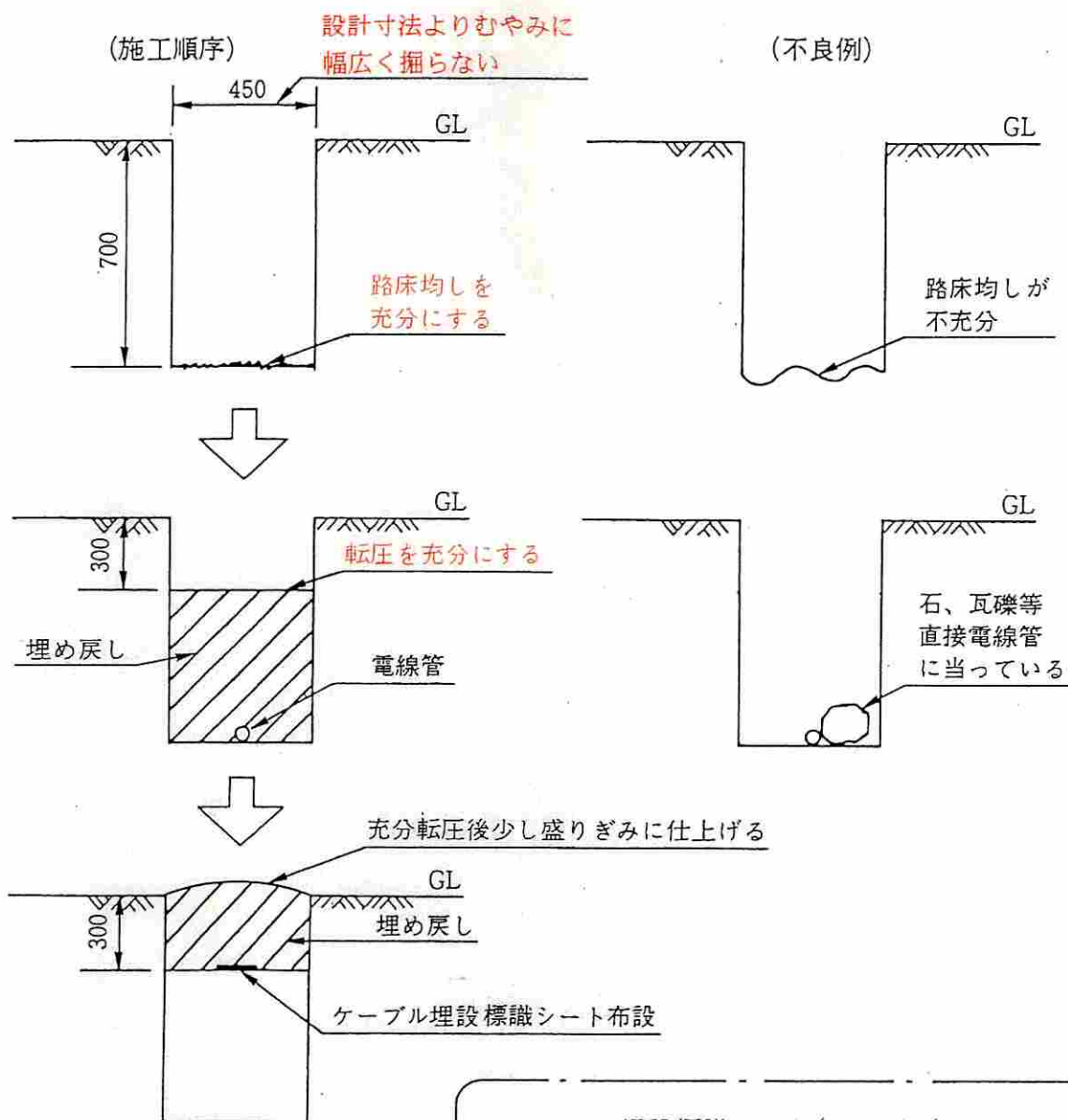
鉄柱嵩上げスパーサー取付参考姿図 1:30

鉄柱嵩上げスパーサー			
品番	品 名	仕 様	備 考
①	ベースプレート	SS400 t=16.0mm : 350	JIS H 8641 HDZ45
②	支 柱	STK400 t= 3.5mm : φ165.2	JIS H 8641 HDZ45
③	リブプレート	SS400 t=12.0mm	JIS H 8641 HDZ45
④	セットボルト	SS400 : M20×80L	JIS H 8641 HDZ35
注記 1. 既設コンクリート水切りを破砕し、公園灯鉄柱を一時撤去した後、既設アンカーゲージの水平を水準器等にて確認し、鉄柱嵩上げスパーサーを取付のこと。 2. 図中に記載した寸法等は、参考値とする。			

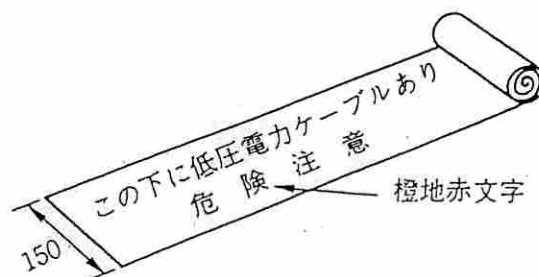
2-6 配管

2-6-1 地中埋設配管

電線管の地中埋設深さは特記のない限り管底で地表下700mm以上とする。

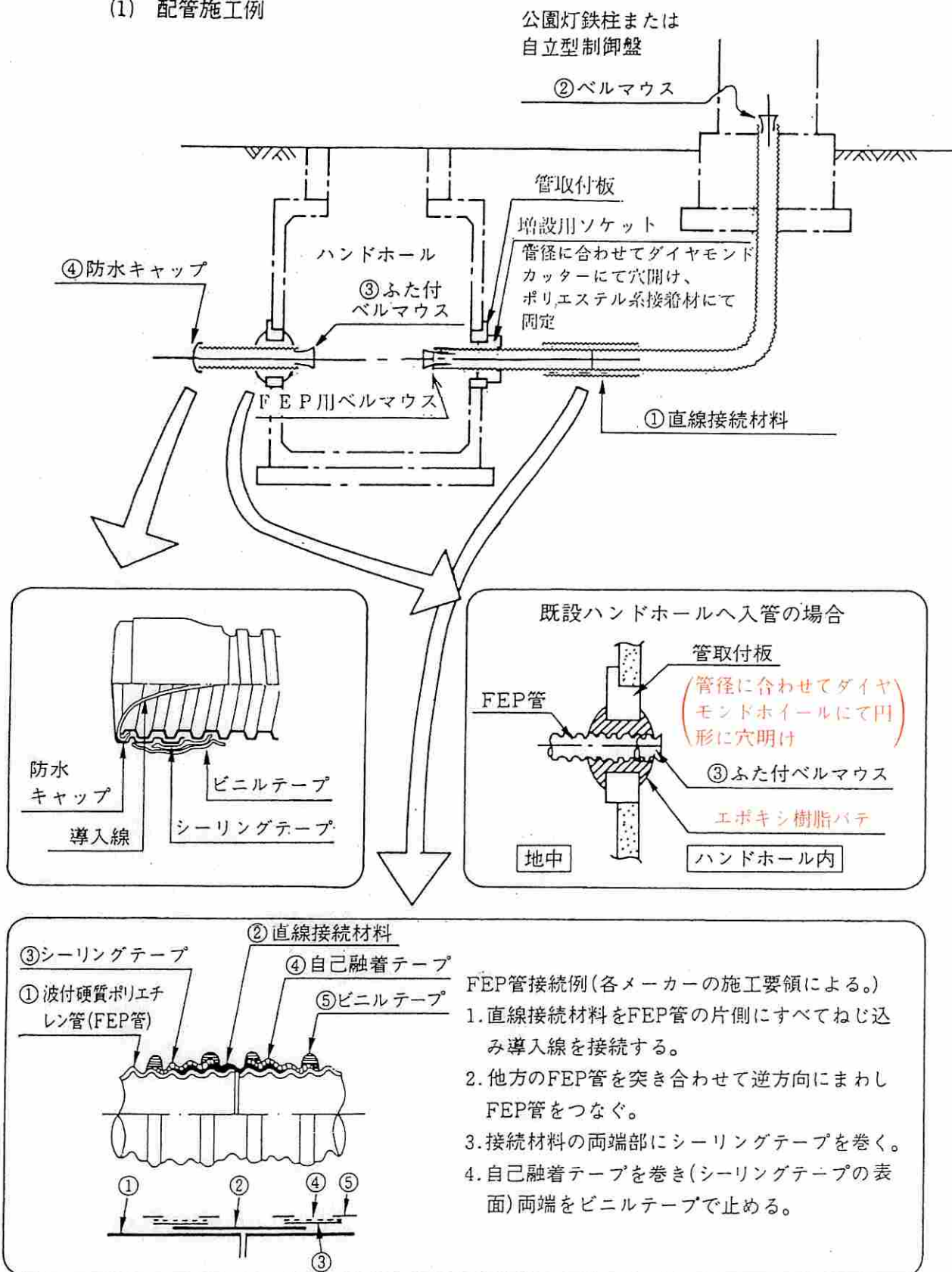


埋設標識シート(シングル)
ポリエチレン製クロス織(ビニル製は不可)



2-6-1-1 波付硬質ポリエチレン管 (FEP管)

(1) 配管施工例

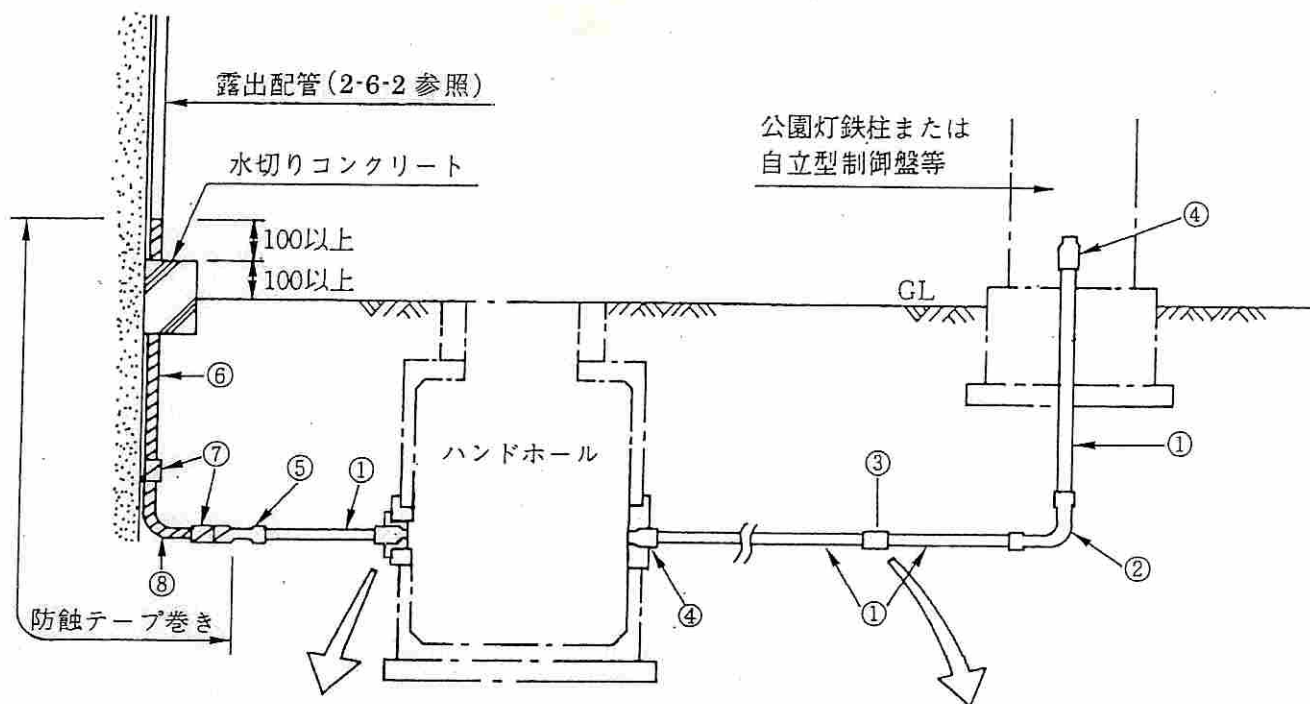


(2) 付属品

付属品はすべて使用配管メーカーの材料を使用すること。

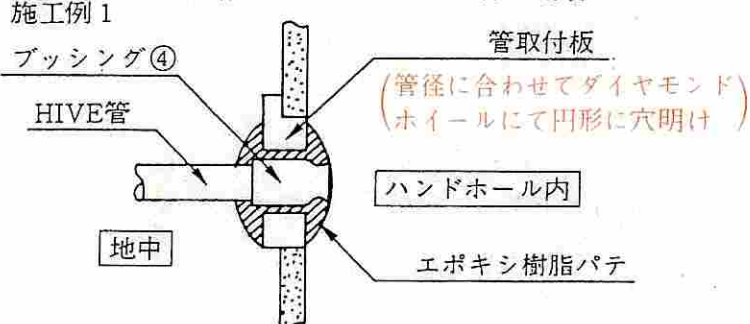
2-6-1-2 耐衝撃性硬質ビニル電線管 (HIVE管)

(1) 配管施工例



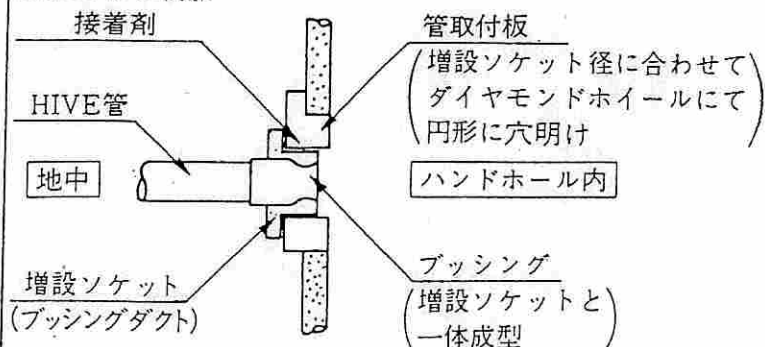
施工例 1

既設ハンドホールへ入管の場合

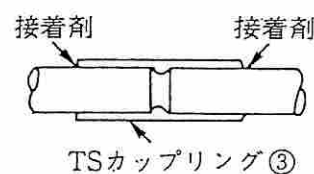


施工例 2

ポリエステル樹脂 接着剤



TSカップリング接続

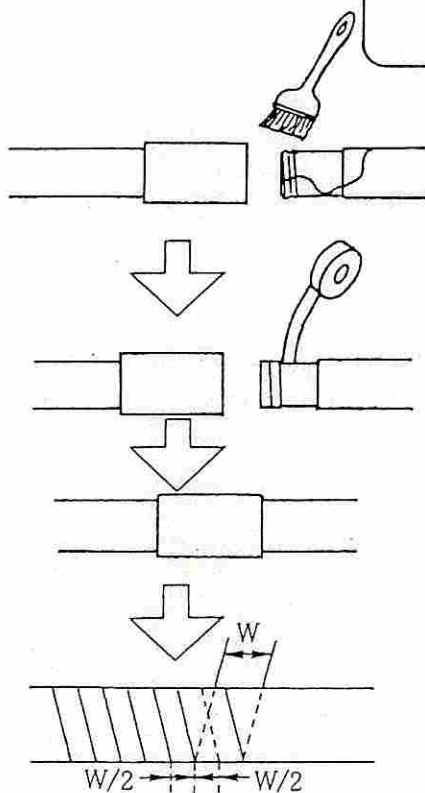
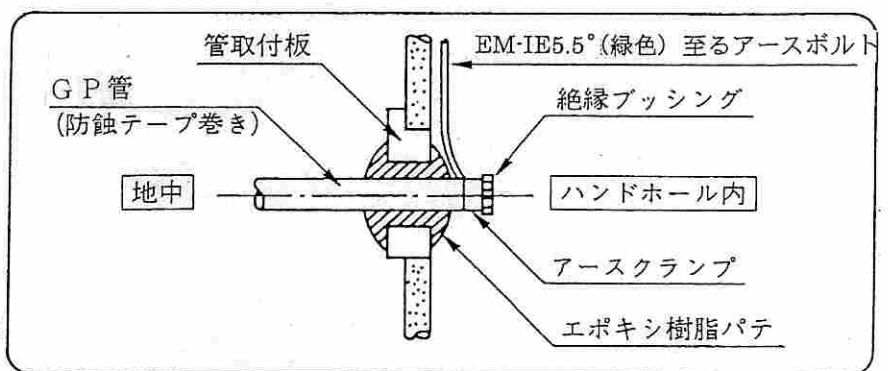
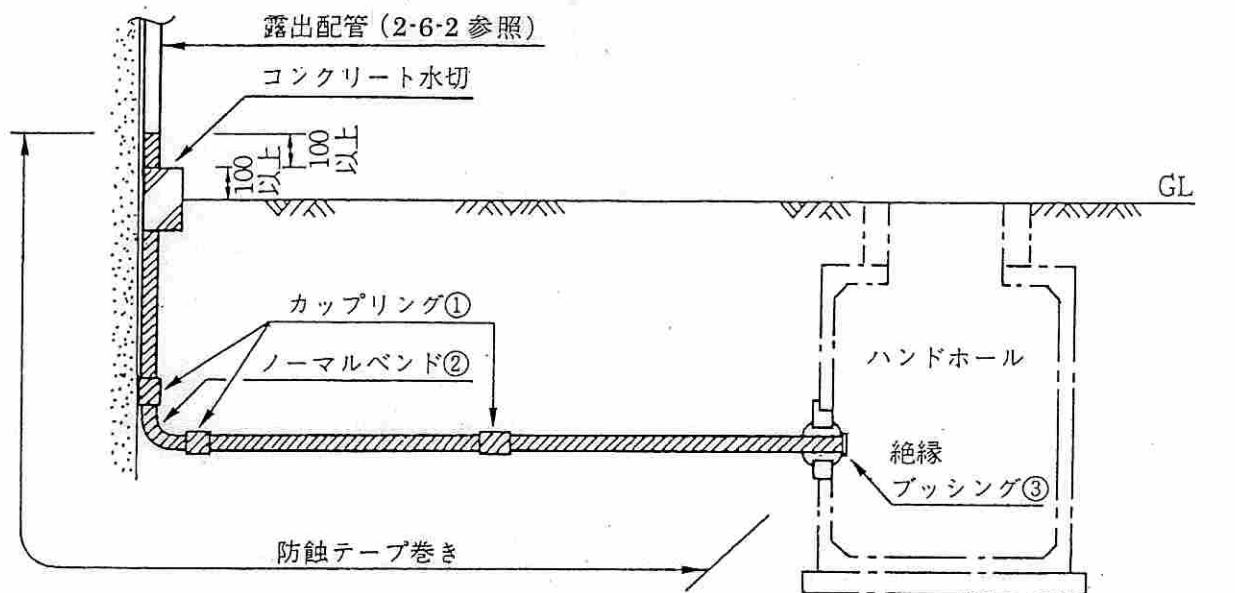


接続面に速効性接着剤をむ
らなく塗り管を一気に差込
み90°ぐらいひねり、固定す
る

- ① HIVE管 直管
- ② HIVE管 ノーマルベンド
- ③ HIVE管 カップリング
- ④ HIVE管 ブッシング
- ⑤ カップリングコネクター
- ⑥ GP管 直管
- ⑦ GP管 カップリング (防蝕テープ巻)
- ⑧ GP管 ノーマルベンド (防蝕テープ巻)

2-6-1-3 金属電線管 (GP管)

(1) 配管施工例



1. 金属電線管の接続は専用のカップリングを用いて行うが、接続前に電線管ねじ切り部の亜鉛めっきはく離部分に防錆塗装(亜鉛粉末式)を行う。
2. ねじ切り部にシールテープを巻き防水接続を行う。
3. 防水接続完了。
4. 地中埋設部分は防蝕テープを施すものとし **巻付け回数は $\frac{1}{2}$ 重ね巻き1回(2重)以上とする。**

2-6-2 露出配管

1. 電線管は原則として厚鋼電線管とする。
2. 配管は美観を考慮し、極力造営材に垂直又は平行とする。(2-5-2-1参照)
3. 塗装は下記による。

(1)素地調整

ア、配管の汚れ、付着物及び油類を除去する。

イ、亜鉛めっき面は汚れ、付着物及び油類を除去しプライマー処理を行う。

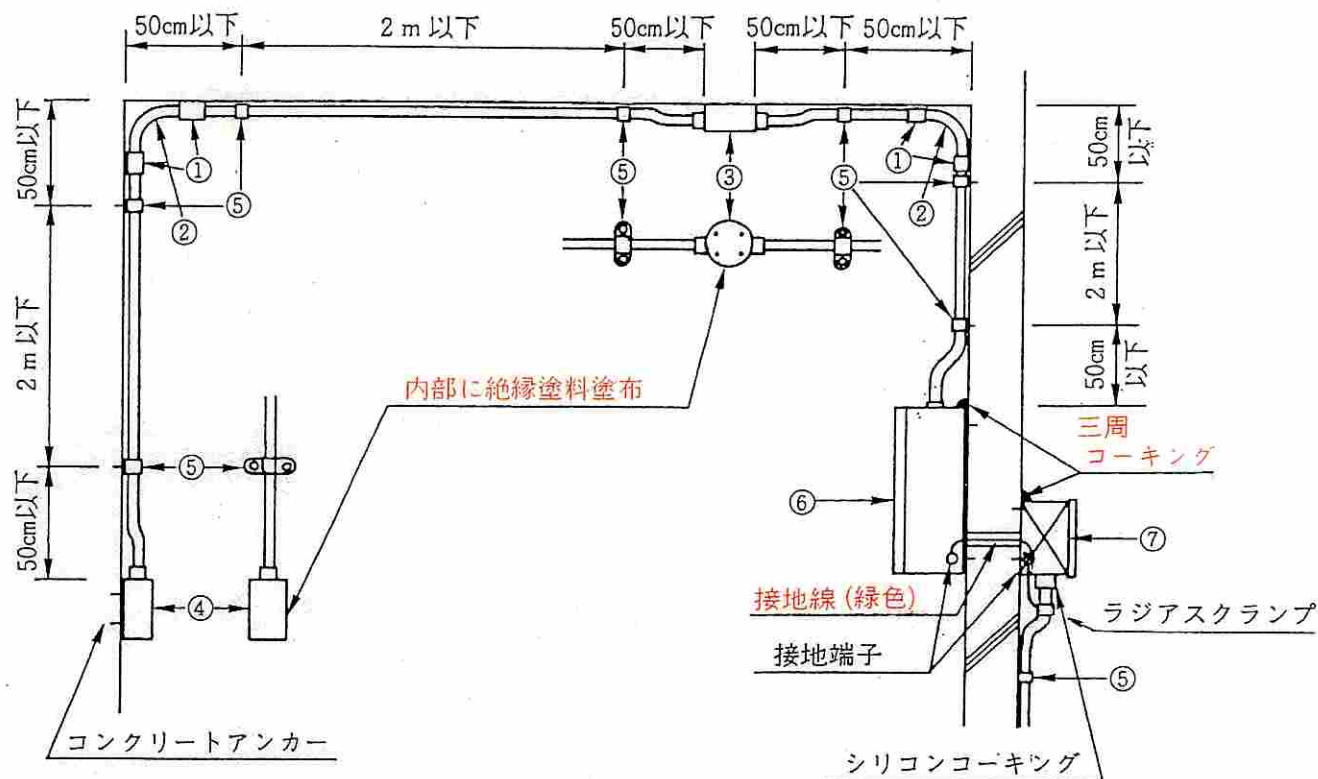
(2)仕上げ塗装

合成樹脂塗料(指定色) 2回

2-6-2-1 金属電線管 (GP)

(1) 配管施工例

既設便所等での施工事例



① カップリング

② ノーマルベンド

③ 丸型露出ボックス

④ 露出スイッチボックス

⑤ サドル

—— 両サドルを使用すること

⑥ 開閉器箱

—— 三周コーキングのこと

⑦ プルボックス

—— 三周コーキングのこと

1. ねじ込み接続となるカ所はボンディングを省略してもよい。

2. 防水プルボックスは溶融亜鉛めっき、又は、ステンレス製を原則とし、かぶせ蓋式（蓋止めネジはステンレス製）パッキン付とする。内部には絶縁塗料を塗布する。また、接地端子付とする。